

第5学年2組 音楽学習指導案

令和3年6月3日(木) 5校時
指導者 谷口 峻音

1. 題材名 「音の重なりを感じ取ろう」 鑑賞教材 「アイネクライネナハトムジーク」

2. 題材目標

- (1) 旋律、音の重なり、音階や調などと曲想との関りを理解して、響きを感じ取りながら互いの音や声を合わせて表現する技能を身に付ける。
- (2) 楽器の音や歌声が重なり合う響き、旋律の重なり方の違いと曲想との関わりについて考え、それらを生かして表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見出しながら曲全体を味わって聴いたりする。
- (3) 楽器の音や歌声が重なり合う響きに興味・関心をもち、互いの音を聴き合いながら表現したり味わって聴いたりする学習に主体的に取り組む。

3. 単元計画(全7時間)

第1次 リコーダーの音が重なり合うひびきを感じ取りながら演奏しましょう(3時間)

第2次 歌声が重なり合うひびきを感じ取りながら合唱しましょう。(2時間)

第3次 いろいろな楽器の音が重なり合うひびきを感じ取りながらききましょう。(2時間)

第1時 旋律の重なり方に注目しながら「アイネクライネナハトムジーク」を鑑賞する。(1時間)(本時)

第2時 いろいろな音の重なり方を聴き取りながら、「プレリュード」を味わって鑑賞する。(1時間)

4. ICT活用の分類

ICT機器	タブレット端末、タッチペン	
アプリ	JamBoard	GoogleDrive
機能	書き込み・移動・削除など	動画視聴 PDF表示
活用場面	資料の比較・分類	鑑賞・比較・検討

5. 本時におけるICT活用による学びの「しやすさ」とは

本時の学習では、「アイネクライネナハトムジーク」の第1楽章における旋律の重なり方について、どのように音が重なり合っているか比較動画を使って考えていく。今回の学習では、一人に一台ずつ用意されたタブレット端末を使うことで、より深い学びになるようにしたい。今回、ICT活用による学びの「しやすさ」として、「話し合いの種となる活用」、「比較する動画を自由に操る活用」、「配布・記入・提出する活用」の3つを考えている。

1つ目の「話し合いの種となる活用」では、「Jam Board」を使うことによる話し合いのしやすさを狙う。今回の実践では、班のメンバーで同時に共有した画面上の課題について話し合いを行い、自分の意見を出し合いながら結論を導き出していく。「Jam Board」の活用による直感的な画面操作により、指示や説明がしやすくなり、従来に比べてより話し合い活動を充実させることが期待できる。また、後述する端末における動画視聴によるシナジー効果にも期待している。また、今回の実践では、操作した「Jam Board」を全体で共有することで各班の考えをまとめていきたい。

2つ目は、「動画を自由に操る活用」である。予め「Google Drive」に動画を用意しておけば、同一の資料を個人や複数人で自由に視聴できる。その資料が動画であれば、今までの複数人の視聴ではできなかった、個人個人が見たいところを何度も繰り返し視聴できることで、個人の考えをより明確にすることができると思う。



最後の「配布・記入・提出する活用」では、今まで紙ベースで記入してきた音楽科の振り返り用紙を「Jam Board」に置き換え、ペーパーレスで実施する。他にも学習の振り返りに活用できそうなアプリもあるが、キーボードによる打ち込み記入、送信による提出等が必要である。時間を多く割きたくない学習の振り返りの時間において、そのような操作に時間がかかる子供にとっては、振り返りをタブレットで提出することはハードルが高いと考える。それを、「Jam Board」に置き換えることでペンでの記入が可能になり、鉛筆で書く感覚で書け、さらに送信や保存などの複雑な操作が不要になり、効率的に振り返り活動ができると期待している。以上のような「しやすさ」を授業に取り入れることで、よりめあてを達成できる実践を目指す。

6. 本時目標

「アイネクライネナハトムジーク」を部分的に視聴、比較し、旋律を聴き取ったり、奏者の動作を見たりすることによって音の重なり方の違いに気付く活動を通し、楽曲全体を通して弦楽器の音が重なり合う響きを味わいながら鑑賞できる。

(思考力・判断力・表現力等)

7. 本時の展開

<p style="text-align: center;">学習活動</p> <p>○発問 ・ 予想される子供の反応</p>	<p style="text-align: center;">指導上の留意点と評価</p> <p>☆ICT活用について ◎指導上の留意点 評：評価</p>
<p>1. 「いつでもあの海は」を聴き、旋律の重なり方を確認する。</p> <p>2. 「アイネクライネナハトムジーク」を鑑賞し、気付いたことを発表する。</p> <p>○演奏を鑑賞して気付いたことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ヴァイオリンで演奏されている。 ・ 4人で演奏されている。 ・ 知っている曲だった。 	<p>◎本時の活動に必要な 3 つの音の重なり方の構造を明確にする。</p> <p>◎楽曲全体を動画で鑑賞し、使用される楽器や奏者の人数など、聴覚からだけでなく視覚からの情報も大事にする。</p> 
<p>楽器の音の重なり合う響きを感じながら鑑賞しよう。</p>	
<p>3. どんなふうに音が重なり合っているか 3 つの部分比べて考える。</p> <p>○曲中の音の重なり方の変化について考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A は、同じ音で演奏されている。 ・ C は、追いかけているように演奏している。 	<p>◎動画ではなく、音源だけのものも用意し、を用いて音に集中して聞くことで、旋律の重なり方に注目させる。</p> 

4. 全体を通して鑑賞する。
- 音の重なり方に注目しながら鑑賞しましょう。どんなことに気づきましたか。
- ・同じような重なりが何回か出てきた。
 - ・重なりの変化が分かった
 - ・曲の感じ方が変わった。
5. 振り返りをする。

- ☆部分を切り取った動画、音源を子供一人一人が操作することで、個別に確認することができ、旋律の重なり方の変化を捉えることができる。
- ☆「Jam Board」を使い、班で情報を共有することによって学びを深める。

評：旋律の重なりを聞き取りながらその変化を楽しみ、弦楽器の音が重なり合う響きを感じ取りながら曲全体を味わって聴くことができている。（ワークシート、発表）

- ☆タブレットを活用した振り返りにより効率よく活動を進めている。

